

頬にミカヅキ斑のあるハシビロガモの経過観察とその考察

2023-06-20

観察・写真：木村雅世、調査・考察：長嶋宏之

(1) はじめに

両頬にミカヅキ斑のあるハシビロガモを初めて見たのは、枯れた蓮の葉が残り、コガモやダイサギやアオサギ等を観察できる馴染みの探鳥地の一つ、館林市仲伊谷田承水溝遊水池で2022年11月18日だった。第一印象は『白いミカヅキ斑のある面白いカモ』だった。このカモをミカヅキ君と名付け、その日から追っかけ観察が始まった。そして疑問が次々と浮かんだ。この子はだあれ？ 何処から来たの？ ちゃんとした大人になれるの？ 色々考えながらこの子と過ごした5ヵ月間はとても楽しかった。以下、長期間にわたる観察の経過とその顛末を紹介します。また不思議に感じたこと、疑問に思ったことなど、友人の長嶋氏が調査・考察して下さいましたので、併せて紹介します。(木村 記)

特記なき写真は木村雅世氏撮影



この子はだあれ？ どこから来たの？ 2022-11-18 仲伊谷田承水溝遊水池

(2) 主な観察地は次の通り

渡良瀬遊水地・北ブロック : 群馬県邑楽郡板倉町

仲伊谷田承水溝遊水池 : 群馬県館林市大島町
 ふれあい公園 : 群馬県邑楽郡板倉町
 いずみの公園 : 群馬県邑楽郡板倉町
 旧川ふるさと公園 : 加須市駒場

(3) 観察記録

表1 : 写真で追った経日変化

	<p>撮影年月日 : 2022-11-18 初認 撮影場所 : 館林市仲伊谷田承水溝遊水池 撮影者コメント : 氏原氏のカモ識別図鑑 p 150 にそっくりな絵がありました。ミカヅキシマアジとハシビロガモの雑種に顔の様子がそっくり。顔に細く白いミカヅキ模様があるだけで、他の部分、クチバシや色、模様はハシビロガモ雄のままなんて、面白いと感じた。</p>
	<p>撮影年月日 : 2022-12-15 撮影場所 : 板倉町いずみの公園 撮影者コメント : ハシビロガモ雄と同じ大きさに見えた。他のエクリップス2羽と移動、または、1羽で行動していた。人が近づくと距離をとって離れるか、頭を背中に入れて寝ているか、のどちらか。採食行動は見られなかった。</p>
	<p>撮影年月日 : 2023-01-18 撮影場所 : 渡良瀬遊水地・北ブロック 撮影者コメント : 夏羽に変わってきた。ミカヅキ斑もしっかり確認できた。</p>

	<p>撮影年月日： 2023-01-24 撮影場所： 渡良瀬遊水地・北ブロック 撮影者コメント： 脇腹のサブエクリプス羽もなくなり、換羽がさらに進行し、夏羽に近づいてきた。しかし頬のミカヅキ斑はしっかり残っていた。</p>
<p>写真なし</p>	<p>2月は渡良瀬遊水地、いずみ野公園、ふれあい公園など、6回観察に行ったが、一般的なハシビロガモばかりで、ミカヅキ君には出会えなかった。(頭部を背中に入れて寝ている個体もいた。その中にミカヅキ君が居たかもしれない。)</p>
	<p>撮影年月日： 2023-03-03 撮影場所： 渡良瀬遊水地・北ブロック 撮影者コメント： ハシビロガモ雄9羽の中にミカヅキが下半分だけ残っている個体が1羽いた。 (頬に白く細長いものが少し見える。) 2023-01-24の個体と同じ個体だとするとミカヅキ斑の上半分は消えてしまったようだ。メジロガモを観察した池にも普通のハシビロガモ雄が7羽いたが、ミカヅキ君はいなかった。</p>
<p>写真なし</p>	<p>終認 4月5日、渡良瀬遊水地の谷中橋上流の池内水路でミカヅキ斑の無い雄6羽を確認。最後に一般的なハシビロガモを見たのは、旧川ふるさと公園4月19日の10羽でした。</p>

表 2：ハシビロガモの観察記録

1. ◎印＝ミカヅキ斑の有無は確認したが、全数カウントはしていなかった。
2. ミカヅキ斑のあるハシビロガモのカウントは明瞭なものだけを数えた。

観察年月日	観察場所	ミカヅキ斑の有無	
		無	有
2022.11.18	仲伊谷田承水溝遊水池	3	1
11.25	〃	1	0
12.02	〃	0	0
12.15	ふれあい公園	◎	0
	いずみの公園	2	1
	仲伊谷田承水溝遊水池	◎	0
12.21	渡良瀬遊水地	◎	0
12.24	ふれあい公園	1	1
12.25	〃	1 1	1
2023.01.04	ふれあい公園	◎	0
	いずみの公園	1	1
01.14	〃	4	0
01.16	渡良瀬遊水地	◎	1
01.18	〃	◎	1
01.19	〃	◎	1
01.20	〃	◎	1
01.24	〃	1 6	1
01.29	〃	1 6	0
02.01	〃	1 4	0
02.03	渡良瀬遊水地	1 8	0
	ふれあい公園	4	0
	いずみの公園	1	0
02.05	渡良瀬遊水地	0	0
02.11	〃	◎	0
02.23	〃	0	0
02.27	〃	3	0
2023.03.03	渡良瀬遊水地	9	1
〃	〃 (メジロガモ観察の池)	7	0

03.08	渡良瀬遊水地	7	0
03.11	〃 (谷中橋近くの水路)	◎	0
03.12	旧川ふるさと公園	◎	0
03.19	渡良瀬遊水地	◎	0
03.27	渡良瀬遊水地 (水量増える)	6	0
03.24	〃	24	0
04.02	〃 (谷中橋近くの水路)	7	0
04.03	渡良瀬遊水地	1	0
04.05	〃 (谷中橋近くの水路)	6	0
04.11	渡良瀬遊水地	8	0
04.13	〃	◎	0
04.14	〃	8	0
04.19	旧川ふるさと公園	10	0
04.23	渡良瀬遊水地	0	0
04.29	〃	0	0

(4) 初認から終認までの観察で分かったこと

ミカツキ斑はサブエクリプス期に見られたが、夏羽への換羽が進むと消えた。サブエクリプス期に明瞭なミカツキ斑が現れるハシビロガモは稀に思えた。他のハシビロガモとはつかず離れず、適当な距離をとっていた。番になりそうな気配は感じられなかった。

(5) 鳥の系統樹から推測する近縁の仲間

ミカツキ斑のあるハシビロガモを見ると、先ず思いつくのは交雑ではなかろうか。そこでハシビロガモと交配が可能な近縁の仲間を鳥の進化の系統樹(参考①)から考えてみると、北アメリカのミカツキシマアジとオーストラリアのミカツキハシビロガモが思い当たる。

表3： 近縁の仲間

和名	ハシビロガモ	ミカツキシマアジ	ミカツキハシビロガモ
英名	Northern Shoveler	Blue-winged Teal	Australasian Shoveler
学名	<i>Spatula clypeata</i> ※2	<i>Spatula discors</i> ※2	<i>Spatula rhynchotis</i> ※2
亜種	亜種なし	亜種なし	亜種なし
TL	43～56 cm	35～41 cm	45～54 cm
繁殖	ユーラシア大陸と北アメリカの北部	北アメリカ北部及び中部	オーストラリア、ニュージーランド

越冬	南ヨーロッパ、北アフリカ、インド、東南アジア、中国南部、北アメリカ南部	北アメリカの南部やウルグアイ以北の南アメリカ北部	渡りをしない
飛来	冬季	1996年1月愛知県木曽川雄1羽 ※8	2019/11/20 大阪城・大阪市、2016/12/18 山田池公園・枚方市、2009/01/21 三角池・沖縄県、2008/11/11 東京港野鳥公園 (参考⑤)

(6) 図鑑の記述から推察できること

表4： 図鑑にみる、ミカヅキ斑のあるハシビロガモに関する記述の有無

引用文献	記述の有無	引用文献	記述の有無
※4	記述なし (日本)	※9	記述なし (オーストラリア)
※5	記述なし (日本)	※10	記述なし (オーストラリア)
※6	写真6 少し説明あり (日本)	※11	記述あり (北アメリカ)
※7	記述なし (日本)	※12	記述あり (北アメリカ)
※8	記述なし (日本)	※13	記述あり (ヨーロッパ)

表4に挙げた図鑑は普通のバーダーが利用する身近な図鑑で、主にその地域の鳥を載せている。日本の図鑑※4～8には、※6を除いてミカヅキ斑に関する記述がない。またオーストラリアの図鑑※9～10にも記述がない。このことは日本やオーストラリアのバーダーにはミカヅキ斑のあるハシビロガモは日常的に馴染みがないことを裏付けている。またオーストラリアに分布するミカヅキハシビロガモとハシビロガモの遺伝的情報の共有や交雑は無いであろうことを示唆している。一方、北アメリカの図鑑※11～12やヨーロッパの図鑑※13には ad  eclipse(late summer)としてミカヅキ斑のあるハシビロガモが挿絵付きで紹介されている。この事は身近にミカヅキ斑のあるハシビロガモがいることを示しており、北アメリカやヨーロッパでは日常的に観察できることを示している。

特に図鑑※13のミカヅキシマアジの項の挿絵に「often associates with Shovelers (left) (ハシビロガモ(左)と良く関わる)」の説明付きでミカヅキシマアジとハシビロガモが並んでいる図が載っていることは特筆したい。

(7) 考察 その1

<突然変異、病気、交雑、遺伝情報>などの疑問に対し、考察を試みた。

ミカヅキ斑のあるハシビロガモに関し、Netで検索すると多くの例が載っている(参考②③④)。このことから、突然変異や病変は考えられない。親が交配したその子であれば、他の交雑ガモ

の例に見るように、夏羽に換羽した後も両親の形質を継いで、両親の夫々の特徴が現れると考えられる。しかし、今回のミカヅキ斑を持ったハシビロガモはサブエクリプス期にミカヅキ斑が認められたが、換羽が進み夏羽になるに従い、ミカヅキ斑は消え、普通のハシビロガモと見分けられなくなった。この事は親よりもさらに数世代前に交雑し、その時の遺伝情報が現れたか、さらに古い昔に分化した折の遺伝情報がサブエクリプス期の羽衣に現れたものではなからうか？

考察 その2 <どこからきたの？ ちゃんと大人になれるの？>などの疑問を考察。

北アメリカに生息するハシビロガモはミカヅキシマアジと近縁種と考えられ、ミカヅキシマアジと種を同じにした時代（分化する前）の遺伝情報や分化後の交雑による遺伝情報を有していると推察できる。このことから、北アメリカに生息するハシビロガモは、潜在的に有している遺伝情報（ミカヅキ斑等）がサブエクリプス期に現れ、換羽が進行するに従い、ミカヅキ斑のない普通のハシビロガモの成鳥に変化すると推察する。

この度、渡良瀬遊水地等で観察したミカヅキ斑のあるハシビロガモは、北アメリカから飛来した個体で、遺伝情報にミカヅキシマアジとハシビロガモの情報を持った、個体ではなからうか。親が交配した結果の子であれば、参考②③にみる、所謂ハイブリッドの姿形となるであろう。

日本で越冬するサブエクリプス期にミカヅキ斑が現れない多くのハシビロガモはユーラシア大陸北部で繁殖し、日本を含む東南アジアとの間で渡りを繰り返している間に、進化の過程で分化した当時の遺伝情報からミカヅキ斑等が消えていったものと考察する。

（８）今後の課題

- ① ミカヅキ斑以外に普通のハシビロガモとの違いはあるのだろうか？特に繁殖羽に変わった後でも、違いが分かるポイントがあるのだろうか？
- ② ミカヅキ斑のあるハシビロガモに標識を付けて、渡りルートの追跡をしてみたい。

（９）参考

類にミカヅキ斑のあるハシビロガモに関する参考資料を下記に示す。

- ① 鳥の進化の系統樹
Blue-winged Teal ミカヅキシマアジ
http://bioweb.uwlax.edu/bio203/2010/deans_kate/classification.htm
- ② 雑種ミカヅキシマアジ×ハシビロガモ
<https://ebird.org/species/x00629?siteLanguage=ja>
- ③ Blue-winged Teal x Northern Shoveler (hybrid) - Spatula discors x clypeata
https://media.ebird.org/catalog?taxonCode=x00629&mediaType=photo&sort=rating_r

[ank_desc](#)

- ④ 日本の野鳥識別図鑑

<https://zukan.com/jbirds/leaf150992>

- ⑤ 八幡自然塾 野鳥アルバム 日本の鳥

<http://nature4-birds-japan.travel.coocan.jp/mikazukihasihirogamo.htm>

- ⑥ ミカズキ斑が薄いハシビロガモの例 (木村雅世氏撮影)

2022年12月25日	2023年1月4日	2023年1月29日
群馬県邑楽郡板倉町 ふれあい公園	群馬県邑楽郡板倉町 ふれあい公園	加須市駒場 旧川ふるさと公園
		

(10) 謝辞

特異なハシビロガモの写真を見た佐野和宏様が、このハシビロガモの特異性に興味をもち、この観察のきっかけを作ってくれました。その上、多くの御指導を頂きましたことに紙面を借りて感謝申し上げます。

(11) 引用文献

- ※1 日本鳥類目録改定第7版
- ※2 IOC WORLD BIRD LIST (13.1)
- ※3 日本におけるミカヅキシマアジの初記録 Strix Vol. 23, pp. 173-174, 2005
- ※4 フィールドガイド 日本の野鳥増補改訂新版 高野伸二著 日本野鳥の会
- ※5 日本のカモ識別図鑑 氏原巨雄著 誠文堂新光社
- ※6 日本の野鳥 写真・解説 叶内拓哉 山と溪谷社
- ※7 日本の野鳥650 写真 真木孝造 平凡社
- ※8 日本の鳥550増補改訂版 水辺の鳥 文一総合出版
- ※9 Field Guide to Australian Birds Michael Morcombe
- ※10 Birds of Australia 7th Edition Ken Simpson & Nicolas Day
- ※11 The SIBLEY Guide to Birds DAVID ALLEN SIBLEY
- ※12 NATIONAL GEOGRAPHIC Field Guide to the Birds of North America 4th Edition
- ※13 BIRDS OF EUROPE KILLIAN MULLARNEY etc. PRINCETON FIELD GUIDES
- ※14 Wikipedia